

も解消されることになる。

ビデオテックスは、コンピュータと各種の通信技術の組合わせの中から生まれ、たものの中では最も将来が期待されている先端的なシステムで、一九八〇年代における情報の世界を一変するだろうといわれている。すでに、ほとんどあらゆる主要先進工業国がビデオテックスの開発を独自に進めており、



ここ二十年以内にはコンピュータによる情報検索など数々の新しい情報サービスが、家庭や職場に出回るだろう。

これまでに開発された多くのビデオテックス・システムの中で、カナダのテリドンは世界最高だという評価が高い。一九七八年八月に初公開されたこのテリド

「テリドン計画は、将来の高度技術に対する投資である」

通信大臣フランシス・フォックス

ンは、いくつかのユニークで前例のない特徴を備えているからである。

テリドンは、ほかのビデオテックス・システムと同じように、いくらか手を加えたテレビ受像機（ディスプレイ・モニター）、インターフェイス転換装置（アダプター）その他の関連電子機器およびキーボード、遠隔通信システム、そして中央コンピュータからなる。このコンピュータには、新聞社や図書館、官庁などが送り込んだ情報が貯蔵されている。テリドンとほかのシステムの類似点はそこまで。テリドンの場合、すべての端末器にミニ・コンピュータが組み込まれているほか、最先端のコンピュータ図形や遠隔通信技術をフルに利用している。そのため、ただのテレビ受像機が、

ボタンを押すだけでたちまち文字、図形、写真によるさまざまな情報が得られる強力な情報機器と化すのである。これは、情報源となる企業その他の組織にとって、他に類を見ない利点である。

さらに、情報をテリドンのデータ・ベース（情報センター）に送り込むのは、他の類似システムと比べてより簡単で、費用も安い。テリドンの情報入力用端末器を使えば、一ページのテキスト（文字や図形の情報）が五分間で作成できる。テキストを手直しするのも容易だから、全部を書き変えなくても新しい情報を加えることができる。操作に時間がかからないため、それだけ費用も節約できるわけである。

テリドン・システムは、さらに、情報を生成することも可能だ。コンピュータによる植字や図書館における人名データ・バンク、ワード・プロセッシング、コンピュータを使った天気地図やその他のデジタル情報システムの出現により膨大な量の情報がコンピュータ・データ・バンクに蓄えられることになった。テリドンだとコード（符号）がほとんどコンピュータ情報システムのコードと合致するため、こうした情報が比較的に簡単にデータ・バンクに収めやすいのである。

しかし、テリドンが他のビデオテックス技術にとりわけ優れているのは、その図形化能力である。テリドンで図形を描く場合、オペレーターはただ二、三のボタンを押すだけで、点、線、弧、多角形、

長方形といった基本的な幾何学的要素（PDI II 図形描写指令）を用いて、簡単にそしてどんな図形でも作製できる。つまり解像度が高い。描こうとする対象が複雑すぎて点や線を合わせるだけでは画像化できない場合は、画面に影像をゆつくり走査させる。これだといくらか時間がかかるが、絵や写真は正確に再生できる。

## テリドンの 三大特長

一、地図、図表、慢画、設計図などを明瞭かつ正確に、流線度で再生できる。

一、電話線、ケーブル、電波、光ファイバーを使って送信でき、通信衛星も利用できる。データ・ベースが伝達およびディスプレイから独立しているため、技術的变化の影響を受けにくい。

一、テリドンの利用者は自分の端末器をミニ・コンピュータとしても利用できる。

テリドンの最大の可能性は情報検索ではなく、双方向通信にある。利用者は、画面に自分の意見を書いたり、説明のための絵や図表を描いたりして、個人同士の話し合いもできるし、会議も開ける。